

ウクライナから避難されている方の 就労につながる新たな取組を始めます

杉並区は、区の交流自治体である福島県北塩原村と、同村内にあるホテル「メルキュール裏磐梯リゾート&スパ」と連携し、ウクライナから避難されている方を対象とした短期インターンシップを実施し、就労につなげていく新たな支援を始めます。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から3年が経過する中、ウクライナから避難されてきている方を対象とした国等からの生活支援が順次終了し、今後は自立に向けた就労支援や日本語習得の支援などが重要になっています。

令和7年3月現在、杉並区内には、36人のウクライナの方が避難生活をされていますが、区においても、当初の生活に関する相談からニーズが変化し、就労に関する相談が増えている状況にあります。

そこで、区は、区の交流自治体である福島県北塩原村及び同村内にあるホテル「メルキュール裏磐梯リゾート&スパ」と連携し、4月26日（土）から5月5日（祝）までの間、ホテルに住み込みで働ける短期インターンシップを実施し、その経験を就労につなげていく新たな取組を始めます。

今回の取組は、文化・交流課の職員が北塩原村との打ち合わせの中で、人口減少による人手不足が喫緊の課題との話を聞き、ウクライナから避難している方とのマッチングができないかと思いついたことがきっかけで始まりました。翌日には北塩原村からメルキュール裏磐梯リゾート&スパの担当者の紹介があり、提案をしてみたところ、ご快諾いただき、今回の取組につながりました。

ウクライナから避難されている方にとって、日本語の習得は就労の壁となっていますが、ホテルでの仕事には、言葉が通じなくてもできる客室清掃や食器の洗浄、調理補助(盛付け)などがあり、言葉の問題が大きく軽減されます。また、短期間であるため、ウクライナから避難されてきている方にとっては、現在の住環境を確保しつつ仕事や地方での暮らしを体験でき、就職のミスマッチを防ぐことができます。北塩原村やホテルにとっても、関係人口の増加や人手不足の解消につながる取組であり、それぞれにメリットがある内容となっています。

実施に当たっては、杉並区は一般財団法人杉並区交流協会と協力し、同協会が取り組んでいる「ウクライナ緊急支援寄附金」を活用して、東京から郡山までの往復の交通費の負担や通訳派遣といった支援を行い、北塩原村は村民との交流の提供や、郡山から現地までの移動手段を確保します。

募集は、日本ウクライナ友好協会（クラヤニイ KRAYANY）を通して、都内に避難している方を中心に声をかけ、4月11日（金）まで10名程度を募集します。

メルキュール裏磐梯リゾート&スパ
福島県耶麻郡北塩原村大字桧原字剣ヶ峯1093番309
<https://mercure-urabandai-resortandspa.jp/>

【文化・交流課長 渡邊 淳之介のコメント】

区は、杉並区交流協会と連携して、令和４年３月に、ウクライナから避難されてきた方への支援に取り組み、４月には募金活動を始めました。令和７年１月現在、600万円を超える寄附が集まっており、これを活用し、避難に要した航空運賃、在留資格の変更にかかる手数料、日本語教室の受講料等を支援しています。

今回の取組もこうした支援の一環であり、これからもウクライナから避難されている方に寄り添った支援を続けてまいります。

【報道機関 問い合わせ先】

文化・交流課長：03-3312-2111 内線3781

広報課報道係：03-3312-2111 内線1502